第１３３号　日本共産党我孫子北地域後援会ニュース　２０２６年９月



歩道の端に育ったつくし野のケイトウ

北地域後援会は我孫子１～４・久寺家・台田・つくし野・並木・根戸・布施のエリア

しらかば北

発行責任者
井上文夫

記録的豪雨の千葉県
我孫子地区の被害は

８月13日午後から線状降水帯が発生し大雨となりました。午後４時30分からの１時間降水量が根戸近隣センターで97ミリ、総雨量が２６４ミリを記録し、夜には「レベル５大雨特別警報」が出ました。大雨で住宅への浸水、道路冠水による車冠水が発生し、市全体で床上浸水69件、床下浸水１１６件、店舗浸水20件を数えました。我孫子地区では、我孫子４丁目で床上浸水14，床下浸水20、店舗浸水10。また久寺家１丁目で床下浸水13でした。その他、並木、根戸、我孫子（妻子原）で浸水被害が出ました。

筆者は午後5時過ぎに我孫子４丁目に行き、大雨のなか現地で冠水状況を見てきました。住宅側より高い国道6号線からの雨水が大量に住宅側に流れ込んでいました。



冠水した道路で動けなくなった

無理に冠水している道路を通行しようとする車が浮き上がって運転不能となる様子も目撃しました。

翌日、船橋議員は我孫子４丁目の被災した後援会ニュース読者宅を訪問して、被災状況を聞き取り対応を相談しました。我孫子４丁目では、新設した雨水調整池が直ぐ満水し、貯水機能を発揮しなかったことが改めて判明しました。市は対策本部を立ち上げ、浸水家屋への調査、道路清掃、消毒、ごみの受け入れなど対応を図っています。問い合わせは市民安全課へ０４（７１８５）１１１１

日本共産党は、都市型水害への新たな対策として、想定を超える雨量への対策、新たな支援制度創設を要望しています。（渡辺）

平和フェスティバル

第18回平和フェスティバルが8月22～23日、我孫子市民プラザホールで開催され、参加した23日は、アニメ映画**「ぞう列車がやってきた」**が上映され（薮下晴子さんの感想を裏面に掲載）ました。

次に**碓田のぼる**さんの講演**「啄木から受け継ぐもの」**として98歳の歌人で教育運動家の真髄躍如としたお話をされました。（松本守正さんの感想を裏面に掲載）。午後は**船橋まさる**さんの原水爆禁止世界大会の報告や平和祈念のお話がありました。

続いて**五十嵐仁**さんの**「いま憲法が危ない」**と題して、高市政権が憲法改悪を目論む憲法審査会。政府に特別な権限を持たせる緊急事態条項。軍事費を拡大し戦争準備を加速する。その他、消費税ゼロの財源。少子化による外国人労働者の問題。憲法集会に初めて参加した若者・女性達の自発的な行動の広がり。



声高く平和憲法絶対堅持の力強い講演で大拍手でした。（江角）

原水爆禁世界大会に参加して
船橋まさる

今、世界は戦争か平和か、核破局か核兵器廃絶かの重大な岐路にあります。

８月４日から６日の３日間、広島で「原水禁世界大会」が開かれました。長崎出身の私は今年も参加しました。会場にはメキシコ、スペイン、オーストラリア、アメリカなど９ヵ国の代表60人を含む約６１００人が集まりました。

ウクライナやイランの戦争が続く中、核兵器使用の危険性が現実味を増しており、会場は核兵器廃絶に向けての強い意思と大きな熱気に包まれました。

また「高校生平和ゼミナール」の若い皆さんが、日本各地で核兵器廃絶や平和の運動に熱心に取り組んでいるという報告に、大きな希望を感じました。

現在、核兵器禁止条約署名国は１００ヵ国に達しました。未だ署名していない日本政府に対して、これからも粘り強く署名を求めていきましょう。

猛暑の中での大会でしたが、被爆者の皆さんの生の声を聞いて、原爆の残酷さと悲惨さを肌で感じ、何としても核廃絶をしなければという思いを改めて心に刻みました。



参加国代表が核兵器廃絶をアピール

花火

いまから１０３年前（大正12年）の９月１日、午前11時58分、関東地方にマグニチュード7．９の大地震が発生した。死者　９万１３３４人、全壊・全焼家屋46万４２０９戸という数字が記録されている。大惨事であった。東京市をはじめ神奈川、埼玉、千葉県に戒厳令が出され、大災害の中で人心が動揺、流言・デマが飛び交い、多数の朝鮮人虐殺が行われた▼９月３日、内務省警保局長が地方長官（都県知事）に発した電文は次のようなものであった。「東京附近の震災を利用し、朝鮮人は各地に放火し、不逞の目的を遂げんとして…すでに東京府下には一部戒厳令を施行したるが故に…朝鮮人の行動に対しては厳密なる取締を加えられたし」▼政府当局のこうした認識のもとで、関東全域で在郷軍人会、青年団などが中心となって自警団が組織され、朝鮮人を標的にした集団虐殺事件が多発した▼我孫子でも惨劇が起きていた。『我孫子市史　近現代篇』には、自警団によって３人の朝鮮人が八坂神社境内で殺害された、と記述されている。１９２３年９月初旬、大震災に伴う朝鮮人虐殺という史実、心に刻み込んでおく必要がある。（竹内）

十五夜の思い出

かれこれ７７～８年前のことになるだろうか。小学校3～4年生の頃、太平洋戦争が終わってから間もなくのことである。私は十五夜が待ち遠しかった。私だけでなく隣近所の仲間たちも同じだった。

十五夜の夜は、どの家も縁側に、ススキの穂をいれた花瓶と、ざるに入れたお供え物を並べて縁側に飾った。子どもたちの目当てはお供え物だった。

十五夜のお供え物は、取っても構わないと言われていた。私は夜になるのを待って仲間たち数人で家々の庭先に周り、縁側のお供え物を黙って失敬していった。備えてあるのは、ふかしたサツマイモや里芋、あるいはふかした小麦粉の饅頭だった。

終戦直後で食べ物などまともになく、ひもじい時代だったからご馳走だった。たまにその家の住人に出くわしてバツが悪くモジモジしていると、「持って行ってもいいよ」とやさしく声をかけられた。

十五夜のちょっとした冒険でもあった。



空を見上げるとまん丸いお月様がぽっかりと浮かんでいた。

（井上）

男の料理

その1

江角

男子厨房に入らずとは昔のこと
男も包丁を手に料理を楽しむこと良し。
簡単でお勧めの料理を紹介します

厚揚げの肉味噌炒め



材料　２人分
豚ひき肉150ｇ
厚揚げ豆腐２枚
ネギ1/2本

調味料　A
砂糖大2 酒大2 生姜小1・
味噌小1・片栗粉小1・
オイスターソース小1・
トーバンジャン小1

作り方　２人分
①ネギはみじん切り。②厚揚げは２㎝の角切りに。③鍋にひき肉とAを入れてよく混ぜてから中火にかける。④ひき肉に火が通ったら、ネギと味噌を加えて中火のまま炒め合わせる。⑤味噌が溶けたら厚揚げを加えて中火のまま炒め合わせる。⑥弱火にして水溶き片栗粉を回し入れて、全体にとろみがついたら火から下ろしてできあがり。

絶対に許せません

松本守正

私の父は大正2年生まれ、尋常小学校を出てすぐ丁稚奉公に出され、戦後は定年まで郵便配達をして４人の子どもを育て、私と弟をお金のかかる私立大学に通わせてくれました。優しい父でしたが、隣家のご主人とは顔が合っても決して挨拶をしませんでした。

物心ついてその理由を尋ねたところ『お隣は、戦前特高警察で散々思想犯を弾圧し、戦後一時的にパージにあったものの解除になった途端、税務署の署長におさまって盆暮は多くの業者から沢山のつけ届けを当たり前のように受け取っている。絶対に許せない輩だ』と。

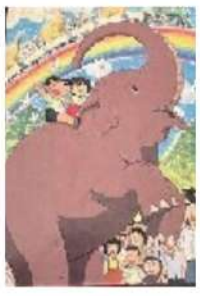
先日の平和フェスティバルで碓田のぼる先生が、戦前は石川啄木の研究をすることも治安維持法で投獄される覚悟が必要だったと話されました。

最近の高市政権の第三国への武器輸出。国旗の扱いに対する刑罰法など戦前回帰の超タカ派的姿勢は、治安維持法や教育勅語の復活すら想起させます。そんな愚挙は絶対に許してはなりません。

『ぞう列車がやってきた』

孫娘と観ました

薮下晴子



4歳の孫娘と観ました。まだ理解するには、むずかしいけれど象やキリン、ペンギンが出てきて、最後まで静かに見ていました。

子どもは動物が大好き。戦争が終わり、ぞう列車が東山動物園に来て、戦争を生きぬいた象を見て歓声があがる。

命の尊さと、平和の大切さを訴えたアニメ映画でした。

寄稿　小原紘　③

自分の感受性くらい自分で守れ　ばかものよ

『自分の感受性くらい』
『倚りかからず』は彼女の生き方をストレートに語ったもので、読み手に緊張を強いながら作者の決意が伝わる歴史に残る名詩といえる。

読者に向かって「ばかものよ」は厳しいが、説得力のある快感がある。

他人のせいにしない自己責任の世界は潔い世界であり元気がでる世界だ。感受性が守れないようでは生きる意味はない。

何かに頼って生きてはだめだ。宗教、学問、いかなる権威にも頼らず、自分の感性と自分の頭で考えてみたらどうか。何事にも倚りかからない。

マルクスの『資本論』の序文「資本論は宗教書ではない。批判的に読むべきだ」を思い出す。自著を批判的に読めというマルクスへの敬意が増えたのを思い出す。ソ連が崩壊したくらいオロオロするな　愚か者よ。

自分の感受性くらい

ばさばさに乾いてゆく心を
ひとのせいにはするな
みずから水やりを怠っておいて
気難しくなってきたのを
友人のせいにはするな
しなやかさを失ったのはどちらなのか
苛立つのを
近親のせいにするな
なにもかも下手だったのはわたくし
初心消えかかるのを
暮らしのせいにするな
そもそもが　ひよわな志にすぎなかった
駄目なことの一切を
時代のせいにするな
わずかに光る尊厳の放棄
自分の感受性くらい
自分で守れ
ばかものよ